

インフラマネジメント基盤「DoboX」の利用状況等について

1 要旨・目的

公共土木施設等に関する情報の一元化・オープンデータ化を可能とするシステム基盤であるインフラマネジメント基盤（DoboX）の利用状況、今後の取組について報告する。

2 現状・背景

県民の安全・安心、利便性の向上、新たなサービス付加価値の創出など広島デジフラ構想に掲げる目指す姿を実現するため、インフラマネジメント基盤（DoboX）を令和4年6月からデータを融合した新たなサービスの提供等を開始し、運用開始後も、道路や河川、港湾などのカメラ情報や、県内23市町が管理する主要な道路の通行止めの状況などの規制情報を追加するなど、利用者のニーズに応じて改善を繰り返しながら、県民サービスの向上等に取り組んでいる。

3 概要

(1) 調査対象

県民、民間事業者等

(2) 調査内容及び期間

調査内容：DoboXの利用状況（サイト閲覧数、データダウンロード数）

調査期間：令和4年6月28日～令和5年5月31日（約11か月）

(3) 調査結果

サイト閲覧数は、約1,000回/月となっており、データダウンロード数は、運用開始から約5か月間で約6,000DL/月、12月以降は約11,000DL/月を超えている。

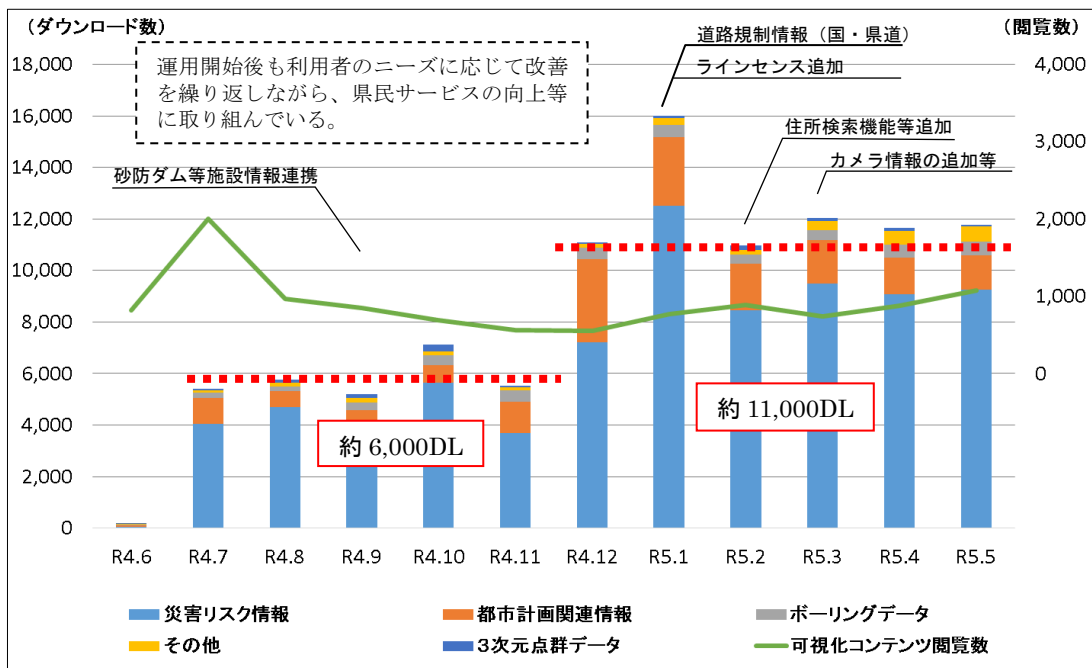


図-1 データダウンロード数（月別推移）

4 現状分析

建設事業者及び防災関係者を中心に利活用が進み、サイト閲覧数は落ち込むことなく一定数を推移している。

オープンデータの利用については、更なるデータの充実や、用途に応じてより扱いやすいオープンデータライセンスを追加するなど、利用者のニーズを踏まえ改善を繰り返した結果、ダウンロード数が大きく増加した。

一方で、DoboX の利用者の多くが建設事業者又は防災関係者となっており、大学や IT 関連業界での研究開発など他分野での活用が十分でないという課題がある。

5 今後の取組

(1) オープンデータの拡充

県保有データの追加や、国や市町等とのデータ連携の拡大など、更なるデータの充実を図り、引き続き、県民の安全・安心、利便性の向上など「広島デジフラ構想」に掲げる目指す姿の実現に向けて取り組む。

(2) データ利活用コンテストの開催

建設分野や防災分野のみならず、大学や企業での研究開発などで利用を促進するため、DoboX のデータを活用した地域課題の解決に向けたアプリケーションの開発や、アイデア等を募集するデータ利活用コンテストを開催する。

コンテストを通じて、多くの方に DoboX を知ってもらいデータ利活用の重要性・有用性を発信するとともに、学生など次世代を担うデジタル人材を育成する。

【スケジュール（予定）】

7月	8月	9月	10月	11月	12月
● キックオフ イベント (募集開始)		● ハッカソン※	● 募集締切	● 一次審査	● 最終審査
← 作品募集期間 →					

※ ITエンジニアなどのメンター（指導者）を派遣し、アプリケーションの開発を支援するイベント